AGU 青山学院大学 NEWS No.26

AGUニューズ第26号
[2005年3～4月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366　東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111（代表）
URL. http://www.aoyama.ac.jp/agunews/

K棟:先端技術研究開発センター（相模原キャンパス）

特集 AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY

21世紀COEプログラム中間評価
青山学院大学
「21世紀COEプログラム」の今
理工学部TOPICS
AGU TOPIC
開設直前!!会計プロフェッション研究科

TOPICS

第81回「箱根駅伝」で
本学陸上競技部2選手が関東学連選抜に!
2004年度の就職活動について

報告・お知らせ

「各国大使講演シリーズ」第3回
ヒシャム・バドル 駐日エジプト大使講演

誌上公開講座

教養コア科目・キリスト教理解関連科目
「キリスト教概論 I」

INFORMATION

2005年度大学入試センター試験利用入学試験、
一般入学試験志願者数

21世紀
COEプログラム
中間評価

青山学院大学「21世紀COEプログラム」の今

～中間評価で最高ランクの評価を達成！～

2004年11月29日（月）、文部科学省が推進する

「21世紀COEプログラム※」の

有識者で構成された同プログラム委員会（江崎玲於奈委員長）より

初年2002年度採択分5分野113件に対する

中間評価が発表されました。

本学は〈化学・材料科学〉分野において

「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」プログラムが

採択されていましたが、

今回の中間評価で5段階評価のうち「現行努力で目的達成可能」という

もっとも高い評価を受けました。

評価を受けたすべての研究プロジェクトの中で

最上位の評価を受けた私立大学は3大学4件にとどまり、

本学の研究スタッフの努力と研究水準の高さが、

客観的な形で証明されたことになります。

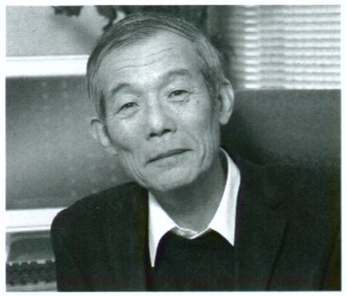
今回の特集では、拠点リーダーである秋光純教授より、

中間評価を受けてのお話をうかがうとともに、

COEプログラムに関わる国際シンポジウムや

若手研究会のトピックスを紹介します。

※「21世紀COEプログラム」
2002年度より文部科学省がスタートさせた国家プロジェクト「世界的研究教育拠点の形成のための重点的支援―21世紀COE（Center of Excellence）プログラム」のこと。全国の国公私立大学から選ばれた研究プロジェクトに対し、政府が5年間重点的な支援を行い、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進する。



日本の物理学研究をもっと盛り上げていきたい……それが私の大きな夢なのです。

拠点リーダー　秋光　純
（理工学部物理・数理学科教授）

――「21世紀COEプログラム」中間評価において、本学が高い評価を得たことについて、率直な感想をお聞かせください。

秋光　今回の中間評価全体を見ると、思いのほか厳しい評価が下されていましたので、その中で本学が最上位の評価を受けたことは、とても光栄なことです。そして私たちの研究プロジェクトの意義と方向性の正しさ、そして現在に至る取り組みに対して、あらためて自信を深めることができ、私を含む各研究者のモチベーションもさらに高まりました。同じ評価を受けた国立大学などと比べて、青山学院大学の研究環境の規模は決して大きくありません。しかし、研究テーマ自体のシャープさや研究者同士のチームワークによって、大規模大学と肩を並べる成果を出しえたという事実は、本学における他の分野の研究者の方々にも、自信を持っていただく契機となりえたのではないでしょうか。

――本学のプロジェクトが、高評価を得ることができた要因についてはどのようにお考えですか？

秋光　やはり、COEプログラムに関わる本学の研究スタッフ全員の頑張りがもたらした結果でしょう。この2年間、異なる分野の研究者たちが実にうまく協調・連携しながらプロジェクトを進めてきました。「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」という研究テーマは、人類が直面するエネルギー問題の解決に寄与する、まさに時代の要請に応える研究です。これは私たちがCOEに向けてわざわざ設定したテーマではなく、理工学部の各研究者の連携の中からごく自然に生まれたテーマなのです。こうした自然な連携の形とテーマ自体のシャープな方向性も、我々のプロジェクトが順調に進捗している大きな要因となっているのかもしれません。また、応用に直接結びついた成果が得られる工学系の研究と、もっと長いスパンで取り組まれる理学系の研究のバランスが良いプロジェクトであることも、私たちの大きな強みです。材料系の研究プロジェクトでこれほど理想的な形を持っている例は、私の知る限り日本国内には他にありません。

――若手研究者育成に関わるCOE教育プログラムなどの取り組みはいかがでしょうか？

秋光　若手研究者の育成は、21世紀COEプログラムの大きな目的のひとつです。本学ではCOE教育プログラムとして、英語プレゼンテーション教育に力を入れるとともに、毎週「COE若手セミナー」を開催し、ディスカッション能力や研究推進能力の向上をはかっていますが、これらが非常にうまく機能しています。さらに若手研究者が海外との共同研究や国際学会に参加する機会も増え、本学での国際シンポジウムも開催しています。こうした機会と環境を有効に活用し、世界で活躍できる多くの有能な若手が育っており、こうした若い人たちの頑張りによって、研究プロジェクト全体のアクティビティも格段に向上しました。大学にとって、「教育」と「研究」が両輪となって進化していくことがひとつの理想ですが、21世紀COEプログラムにおいて、そのカタチが整いつつあるのを実感します。その影響は学部にもおよんでおり、21世紀COEプログラム選定をひとつのきっかけとして、理工学部全体が教育・研究の両面で大きく進化しました。私は、本学からもう1件ぐらいCOEにチャレンジする研究プロジェクトが生まれることを期待しています。

――今後の研究活動への意気込みと目標をお聞かせください。

秋光　最初に申し上げたとおり、私たちの研究プロジェクトでは、研究者間の連携が大変うまくいっているわけですが、今後もこうした有機的な連携をさらに強化していくつもりです。また、産官学および地域連携の強化を図っていくことも課題です。COE＝卓越した研究“拠点”なのですから、大学内だけではなく、広い視野での社会貢献を考えた研究活動を展開していくことが大切になります。実際、私たちのプロジェクトでは、東京工業大学など他大学との研究上でのコラボレーションも積極的に展開しています。他大学は研究上のライバルでもあるわけですが、研究とはそもそも「競争」と「協調」の両輪によって深まっていき、進化していくものなのです。また、研究から生まれる学内の知的財産を管理・活用するシステムも整備していく必要があるでしょう。

個々の研究者・プロジェクトに関しては、中間報告の評価に慢心することなく、着実に研究を深め、成果を出しつつあります。

私個人の研究としては、自らが発見した「二ホウ化マグネシウム（MgB_2）」を上回る臨界温度（T_c）を有する超伝導体を、また次のステップとして「室温超伝導体」を見出すことが目標です。また、本学で開催する国際シンポジウムなどを通して、超伝導研究におけるアジア諸国と日本のコラボレーションを強化していく取り組みにも力を注いでいきたいと思っています。現在、アジア諸国の優秀な研究者の多くが、日本ではなくアメリカをフィールドに活躍しています。その流れを日本に向けて、日本の物理学研究をもっと盛り上げていきたい……それが私の大きな夢なのです。もちろん、私一人の力ではできないことですから、そのためにもCOEの研究プロジェクトを通して、本学から世界に通用する若手研究者をどんどん送り出すことが大切になると考えています。

21世紀
COEプログラム
中間評価

「第2回21世紀COEプログラム国際シンポジウム」

ダイヤモンド薄膜の研究に関する世界の頭脳が集結

2004年12月10日（金）・11日（土）の2日間、相模原キャンパス B棟9階ビューラウンジにおいて、第2回21世紀COEプログラム国際シンポジウム「ニューダイヤモンドフォーラム第1回研究会」が開催されました。このシンポジウムを主宰した澤邊厚仁教授に国際シンポジウムの経緯、およびダイヤモンド薄膜の研究の意義等についてお話をうかがいました。

理工学部
電気電子工学科 教授
澤邊 厚仁

●「ニューダイヤモンドフォーラム第1回研究会」について

今回の国際シンポジウムのテーマは「ダイヤモンドのエピタキシャル成長とその関連技術（Epitaxial Growth of Diamond and Related Technology）」。主として次世代光エレクトロニクス材料として注目されているダイヤモンド薄膜の製作技術についての講演と討論が行われました。ダイヤモンド薄膜の研究は、日本が世界をリードしており、実は青山学院大学がパイオニア的存在です。十数年前から、低圧で作られた人工ダイヤモンドによって、ダイヤモンドの薄膜を作ることが可能になり、さまざまなモノの表面にコーティングできるようになりました。このダイヤモンド薄膜を半導体材料として使えば、従来使用されていたシリコン、ゲルマニウムを超える究極の半導体を作ることができます。こうした電子材料として使用するためには、大面積で、結晶として純度の高い薄膜を作成しなくてはならないのですが、この作成技術でもわが国がトップランナーです。今年初めに、私たちは1センチ角の薄膜を作ることに成功し、来年を目途に直径1インチ（約2.5センチ）のものを完成させる予定です。今回のシンポジウムには、国内外におけるダイヤモンド薄膜の作製研究に関わる主要な研究者のほとんどが集結し、当日の会場では最先端の話題をめぐる活発な討論が展開されました。

●なぜ「ダイヤモンド」なのか？

宝石の“王様”の地位にあるダイヤモンドですが、実は工業材料としても“王様”なのです。たとえば熱の伝導率、硬度、絶縁性、音の伝導率など、あらゆる物質の中でトップデータを示しています。また、硬いのに粘りがあり、光も通す……こうした興味深い特性により、多分野にわたってその利用が有望視されています。そのための過酷な実験にも十分耐えられる材料でもあり、私は故犬塚直夫教授の指導のもと、学生時代からこのダイヤモンド薄膜の研究に取り組んできました。20年以上付き合った現在でも、まったく飽きません。その輝きと同様に実に奥の深い材料なのです。

●ダイヤモンド薄膜の応用と研究のこれから

COEプロジェクトでの基礎研究と同時に、私たちはNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の受託研究で、ダイヤモンド薄膜の応用にも取り組んでおり、ダイヤモンドが表面から電子を放出するという性質を利用した高効率・高輝度のディスプレイの開発なども進めているところです。基礎研究と応用研究が両輪となっているところも大きな特色といえるでしょう。私は企業（東芝）の研究員として約130件ほどの特許取得に関わってきました。その経験から言うと製品化を目指す応用研究では、今後、知的財産についての戦略的思考も重要になってくるはずです。また、若手研究者育成のため、知的財産に関する教育プログラムも必要になってくるのではないでしょうか。

ダイヤモンド薄膜の研究は、これからまだ長いスパンで取り組むべきテーマなので、若手の育成には力を入れていきたいですね。私の研究室では、博士前期課程の院生が学会での受賞を果たすなど、若い人々が頑張っています。彼らの頑張りをカタチにできるよう、私もサポートしていくつもりです。

「第3回 21世紀COEプログラム 国際シンポジウム」超伝導材料に関する最先端の知見が披露される

2005年2月4日（金）・5日（土）の2日間、相模原キャンパスB棟9階ビューラウンジにおいて、本学21世紀COEプログラム主催による「第3回 21世紀COEプログラム 国際シンポジウム」が開催されました。テーマは「有機、無機超伝導材料の物理／Physics of Organic and Inorganic Superconducting Materials」。講演を行ったのは、秋光純教授、阿部二朗助教授ら本学の研究者のほか、東北大学金属材料研究所・福山秀敏教授をはじめ、東京大学、京都大学、名古屋大学の研究者、さらに海外からは香港大学のP.Chu教授、プリンストン大学のP.M.Chaikin教授が参加。各講演者の発表に対して活発な質疑応答が展開されるなど、超伝導材料研究の国際的な盛り上がりを肌で感じさせてくれるシンポジウムとなりました。同時に、COE若手研究者のポスター発表等も開催されました。

21世紀COEプログラム若手研究会開催報告

2005年1月12日（水）相模原キャンパスF棟F407教室において、本学21世紀COEプログラム主催による若手研究会が開催されました。「量子ゆらぎとランダムネスの競合による磁性～物質設計をめざして～」をテーマとし、関係する国内の研究者、特に若手研究者の方々を招き、講演内容に対する様々な視点からの討論が行われました。非磁性な状態の物質に非磁性な不純物をドープすることにより磁気的な秩序が誘起される現象に代表される、量子ゆらぎとランダムネスが重要な役割を果たす新奇な現象を対象に、実験・理論両面からの最新の研究結果が発表され、本質的理解に向けた議論が行われました。また、物質設計の立場からその物性を利用した機能性材料の可能性について広い視点での議論が行われました。テーマを絞った研究会のため、参加者の間でより踏み込んだ討論が行われ、共同研究など今後の発展につながる研究会となったと考えています。実験的手法の研究として、東京大学物性研究所の菊地淳氏、東京大学大学院理学系研究科の小嶋健児氏、本学COE研究支援者の佐々木智生氏、理論的手法の研究として、東京大学大学院工学系研究科の藤堂眞治氏、京都大学大学院理学研究科の藤本聡氏、本学物理・数理学科の古川信夫氏からご講演いただきました。

（21世紀COE研究支援者 安田 千寿 記）

理工学部TOPICS

青山学院大学理工学部では、21世紀COEプログラム以外にも、
先進的な理工学教育・研究を志向するさまざまな取り組みがスタートしています。
ここでは、2004年11月～12月に開催された主なセミナー・シンポジウムを紹介します。

2004年度第2回特許セミナー

2004年11月17日(水)、相模原キャンパスF棟において本学理工学部・総合研究所自然科学研究部共催、本学理工学会後援「学生・教職員のための特許セミナー」が開催されました。井深 丹氏(TAMA-TLO株式会社代表取締役社長)から「TAMA-TLOと技術移転—大学が支える新製品開発—」、鈴木壯兵衛氏(三好内外国特許事務所副所長)から「研究成果の権利化とその活用—研究成果を特許出願するには—」と題して、それぞれご講演いただきました。TLOとは「技術移転機関」のことですが、井深氏は、大学初の研究成果から新製品を生み出すにはTLOの存在が欠かせないとして、TAMA-TLO株式会社の成功事例や最新のトピックスを紹介し、将来の展望についてもお話いただきました。鈴木氏には、弁理士の立場から2002年の特許法改正以後の出願について、特許法第36条が規定する出願書類のうち「願書」を除く「明細書」、「特許請求の範囲」、必要な「図面」および「要約書」を具体的な事例をあげて説明していただき、研究成果の権利化とその活用を考えるうえで重要ないくつかの法についても解説していただきました。本学からは電気電子工学科 澤邊厚仁教授が「エピタキシャルダイヤモンドの選択成長に関する特許出願—出願した技術内容と応用例について—」と題して、また、機械創造工学科 林光一教授が「私の特許創め考」として講演が行われました。

理工学部附置先端技術研究開発センターシンポジウム2004

2004年12月4日(土)、相模原キャンパスE棟E206教室において、「理工学部附置先端技術研究開発センターシンポジウム2004」が開催されました。文部科学省「私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業」中間成果報告などが行われ、同時に若手研究者によるポスターセッションも開催されました。

●第1部【外部資金で運営する研究プロジェクト】

・「高分子材料の衝撃破壊特性評価」／代表者:機械創造工学科 竹本幹男教授
・「電磁波環境改善のための材料探索とその応用」／代表者:電気電子工学科 橋本 修教授
・「次世代DNAマイクロアレイシステムの開発およびこれを利用した神経回路形成機構の研究」／代表者:化学・生命科学科 田代 朋子教授
・「エネルギー高効率利用のための新機能システム」／代表者:機械創造工学科 林 光一教授

それぞれの研究プロジェクトについて代表者より中間成果が報告されました。

●第2部【「私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業」エネルギー高効率化のための新機能性材料の開発および評価の研究プロジェクト】

物理・数理学科 秋光純教授、電気電子工学科 澤邊厚仁教授、同学科 中田時夫助教授の3名が、それぞれプロジェクトリーダーを務める研究プロジェクトの中間成果を報告しました。

●第3部【プロジェクト講評】

東京大学物性研究所 広井善二教授をはじめ外部の有識者を含む評価委員による各プロジェクトの講評が行われました。

本学理工学部と北里大学医学部との合同公開シンポジウム「ひとに優しい医療を創生する医学と理工学の融合」

2004年12月11日(土)、北里大学相模原キャンパスL3号館409講義室において、北里大学医学部・本学理工学部学術交流記念合同公開シンポジウム「ひとに優しい医療を創生する医学と理工学の融合」が開催されました。当日行われた講演内容は右記のとおりです。

なお、本学理工学部と北里大学医学部は、2004年9月に学術交流協定を締結しており、今後も継続的な共同研究体制の確立に向け、さまざまな活動を展開していく予定です。

○「環境化学物質と発達障害:DNAマイクロアレイを用いたリスク評価」
本学理工学部化学・生命科学科／田代朋子教授
○「血管内カテーテルを用いた治療の進歩」
北里大学医学部／磯部義憲講師
○「患者に優しい手術:内視鏡外科の進歩」
北里大学医学部／渡邊昌彦教授
○「感性ロボティクス:介護ロボットではなく介護者支援ロボット」
本学理工学部情報テクノロジー学科／富山健教授

開設直前!! 青山学院大学 大学院 会計プロフェッション研究科

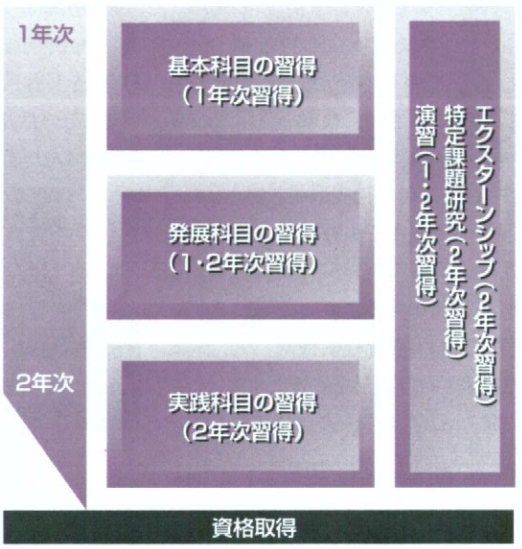
2005年4月、大学院国際マネジメント研究科と法務研究科のふたつの研究科に加え、3番目の専門職大学院として『会計プロフェッション研究科』が開設されます。高度な職業倫理性を有し国際人としての素質を十分に備えた会計専門職＝会計プロフェッションの育成を目指すこの専門職大学院は、実践的で質の高い独自のカリキュラム編成と、実務家教員（公認会計士、税理士等）を含む優秀な教育スタッフをそろえ、社会的要求に応えられる幅広い会計プロフェッション教育を展開します。

会計プロフェッション研究科のカリキュラム

※新公認会計士試験制度と国際会計士連盟（IFAC）の職業会計士教育国際基準に対応

公認会計士や
その他会計専門職（税理士等）の
資格取得のための
プロフェッションカリキュラム

企業内CFOや公的機関等
会計ナレッジ習得のための
プロフェッションカリキュラム



修了要件単位
50単位以上

履修必修科目
〈1〉必修科目を16単位修得。
〈2〉選択必修科目16単位修得。
〈3〉上記、〈1〉、〈2〉のほか、18単位取得。
〈4〉研究指導（選択必修8単位）を履修したものは、〈1〉の必修科目16単位、〈2〉の選択科目16単位に8単位加えた選択必修科目24単位以上のほか、10単位以上を修得しなければならない。

履修上限単位
年間34単位

専任教員

2005年4月就任予定

青木　茂男
管理会計I・II
財務分析I・II
管理会計演習I・II・III・IV
特定課題研究I・II

唐沢　昌敬
会計倫理、経営学I・II
経営コンサルティング概論
経営組織と管理会計
経営演習I・II・III・IV
特定課題研究I・II
エクスターンシップ

鈴木　豊
公会計
税務会計
公監査
財務会計演習I・II・III・IV
特定課題研究I・II
研究指導I・II

町田　祥弘
会計倫理
監査論I・II
国際監査
インターナルコントロール
監査演習I・II・III・IV
特定課題研究I・II

井上　良二
財務会計I・II
会計制度I・II
財務諸表
財務会計演習I・II・III・IV
特定課題研究I・II

小林　秀行
上級簿記I・II
会計基準I・II
簿記演習I・II・III・IV
特定課題研究I・II

多賀谷　充
会計倫理
ディスクロージャー制度
証券取引法、会計行動論
監査事例研究II、公認会計士法
財務会計演習I・II・III・IV
特定課題研究I・II

松井　隆幸
会計倫理
監査基準I・II
内部監査
コーポレートガバナンス
監査演習I・II・III・IV
特定課題研究I・II

梶川　融
会計制度I・II
特殊会計III・IV
財務会計演習I・II・III・IV
エクスターンシップ

佐藤　正勝
租税法総論、法人税法I
国際租税法
租税法事例研究II
租税法演習I・II・III・IV
特定課題研究I・II
研究指導I・II

橋本　尚
財務会計I・II
国際会計I・II
国際財務報告
財務会計演習I・II・III・IV
特定課題研究I・II
研究指導I・II

松尾　明
IT関連I・II
ITアシュアランス
システム監査
ITガバナンス
監査演習I・II・III・IV

金田　勇
会計情報システム
上級原価計算I・II
会計事例分析II
原価計算演習I・II・III・IV

重田　晴生
商行為I
企業法事例研究I・II
企業法演習I・II

八田　進二
会計倫理、監査制度I・II
職業倫理
会計事例分析I
監査演習I・II・III・IV
特定課題研究I・II
研究指導I・II

兼担教員　2005年4月就任予定

太田　浩 ミクロ経済学	**加藤　篤史** 経済発展の戦略	**菊池　純一** 金融関連法II	**杉山　学** 特殊会計I	**関　武志** 民法I 民法II	**田中　隆雄** 管理会計I 管理会計II	**谷原　修身** 金融関連法II	**玉木　欽也** マネジメントITI マネジメントITII
東海　幹夫 原価計算I 原価計算II	**土橋　正** 会社法II 企業法事例研究II 企業法演習III・IV	**西澤　宗英** 金融関連法I	**林　伸二** トップマネジメント論	**吉田　直** 商法総則 会社法I			

兼任教員　2005年4月就任予定

青木　俊介 統計学I 統計学II	**石川　光男** エクスターンシップ	**一法師信武** 監査事例研究I	**小俣　光文** 簿記I 簿記II	**亀川　雅人** ファイナンス	**木村　武** エクスターンシップ	**木村　敏夫** エクスターンシップ	**木村　八郎** エクスターンシップ
剱持　俊夫 経営戦略 会計戦略	**紺野　卓** 英文会計I 英文会計II 米国会計実務	**斎藤　真哉** 特殊会計II	**杉山　治男** エクスターンシップ	**鈴木　裕之** エクスターンシップ	**遠山　順子** エクスターンシップ	**日野　実** 法人税法II 租税法事例研究I	**開澤　栄相** マクロ経済学 金融と市場
松岡　章夫 租税法各論	**松田　茂** エクスターンシップ	**宮　直仁** エクスターンシップ	**宗岡　徹** 企業事例分析I 企業事例分析II	**山口　幸三** Eコマースと会計	**山本　清** 公管理会計	**渡邉　直文** 法人税法III 租税法事例研究I	

大学院法学研究科「ビジネス法務専攻」もスタート

本学大学院法学研究科では、既存の私法専攻・公法専攻に加え新たに2005年4月「ビジネス法務専攻」を開設します。本専攻は、ビジネス・リーガル双方の観点を融合した独自のカリキュラムを編成（下チャート参照）。知財法務・税法務・人事労務法務の分野で活躍できる「ビジネスローリテラシー」を備えた職業人の育成を図る、これまでにない新しいタイプの大学院教育プログラムです。

ビジネス法務専攻のカリキュラム

特色ある4層のカリキュラムコンテンツによりビジネスとリーガルの融合を実現

「コアコンテンツ」「プログラムコンテンツ」「イシューコンテンツ」「プログラムワークコンテンツ」の4層のコンテンツを設置。「コアコンテンツ」を土台にして経営戦略法務的な観点・知識を習得した上で、「プログラムコンテンツ」にて各専門性を磨き、「イシューコンテンツ」にて事例分析能力を高め、「プログラムワークコンテンツ」にて、各受講生のリテラシー・問題関心の総仕上げを行う構想です。

修了要件30単位

人事労務法務プログラム	知財法務プログラム	税法務プログラム	24単位＋α
プログラムワークコンテンツ　裁判例・事例演習とリサーチペーパー又は修士論文指導			最終目標 8単位 選択必修
人事労務法務 演習及びリサーチペーパー（修士論文）8単位 選択必修	**知財法務** 演習及びリサーチペーパー（修士論文）8単位 選択必修	**税法務** 演習及びリサーチペーパー（修士論文）8単位 選択必修	
イシューコンテンツ　ケースメソッド型講義　●ホットイシューについて、学際的な観点からアプローチ 1単位18科目中4単位　選択必修			応用 4単位 選択必修
プログラムコンテンツ　レクチャーメソッド系講義　●各プログラムを専攻し、各専門性を磨く			発展・展開 6単位 選択必修
人事労務法務 2単位6科目中6単位　選択必修	**知財法務** 2単位6科目中6単位　選択必修	**税法務** 2単位6科目中6単位　選択必修	
コアコンテンツ　レクチャーメソッド系講義　●基本的リテラシー修得　●経営戦略法務的発想修得 2単位12科目中6単位　選択必修			土台 6単位 選択必修

本専攻では、受講生個々の要望・状況に出来る限り対応できるように、
各コースについているコーディネーター等が、履修指導を行うことを予定しています。

第81回「箱根駅伝」で本学陸上競技部2選手が関東学連選抜に!

左から佐藤君、原監督、仲村君

2004年度、実業団出身の原晋監督（長距離）のもと、新しいスタートを切った陸上競技部。2005年1月2日（日）から開催された第81回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）の関東学連選抜チームに、本学陸上競技部から佐藤良仁君（経済学科4年）と仲村一孝君（経営学科3年）が選ばれました。仲村選手は故障により、残念ながら本戦出場14名のエントリーを外れましたが、佐藤君が往路第1区（大手町→鶴見間・21.4km）に出走。区間17位で國學院大学の三島選手にタスキをつなぎました。佐藤君は2年前の第79回大会にも関東学連選抜第3区に出場しており、2度目の箱根駅伝出場となります。しかし、監督と部員たちが目指しているのは、「青山学院大学」としての出場。そこで原監督、佐藤選手、仲村選手にそれぞれの「箱根」への思いをうかがいました。

[原晋 陸上競技部監督]

陸上競技部長距離ブロックでは、大学として箱根駅伝に出場するため、2004年度より3年計画でチーム力強化を進めています。長距離選手のトレーニング方法は、実はどの大学でもそれほど変わりはありません。では、どこで箱根出場を果たすチームとそうでないチームの差がでるのか……それは「ぜったい箱根で走る」という一人ひとりの強い意識です。練習だけではなく、生活態度を含めて1日24時間、どれだけ陸上のことを意識していられるかが勝負の分かれ目なのです。私が監督に就任した当時の陸上競技部は、そういう意識の面で、かなり“甘い”チームでした。そこで徹底的なチーム全体のモチベーション改革を進め、その効果は徐々に表れてきました。その間、前主将の佐藤君は、意識改革を迫る私と長距離の部員たちの間に立って、かなり苦しんだと思いますが、チームをよくまとめ、後輩たちの意識改革に力を尽くしてくれました。

[佐藤良仁 君]

写真中央:左から3番目が佐藤選手

箱根駅伝は大学入学当初からずっと意識していました。今回で学連選抜としての出場は2度目なのですが、やはり第1区スタート前は、緊張で自分がピリピリしているのがわかりました。前半は沿道の応援の声にも後押しされ快調なペースで走ることが出来たのですが、後半15km地点あたりからタイムが落ちてしまったのが悔やまれます。しかし、大学最後の年に箱根路を走ることが出来てほんとうに良かったです。4月から、私は実業団で長距離を続けますが、ここまで一緒に頑張ってきた後輩たちには、ぜひ「青山学院大学」チームとして、箱根駅伝出場を果たしてほしいですね。心より応援します。

[仲村一孝 君]

原監督と共に「町田寮」で共同生活をおくるようになった2004年度から、私たち陸上競技部の長距離選手は確実に進化したと思います。私自身も夏ぐらいから自分のタイムがぐんぐん上がり、大学に入ってもっとも楽しかった年でもありました。長距離選手にとって自分の記録を塗り替えることほどの喜びはありません。また早朝練習の後は、気持ちよく1限目の授業に出ることができ、学業との両立も万全です。2005年度は多くの優秀な1年生も加わり、過去最強の陸上競技部の陣容が整います。2006年1月は、必ず青山学院大学として箱根駅伝に出場してみせます!私は難所と言われている山登りの「第5区」を走りたいですね。

青学体育会が大活躍!

レスリング部・長谷川恒平君、全日本大学レスリング選手権大会55キロ級で優勝

2004年11月18日（木）・19日（金）、東京・駒沢体育館で行われた「内閣総理大臣杯第30回全日本大学レスリング選手権大会」フリースタイル・55キロ級で、本学レスリング部部長の長谷川恒平君（教育学科2年）が優勝しました。高校時代に7連覇の偉業を達成した長谷川君ですが、大学生としては今回が初の栄冠となります。 決勝の相手はインカレ優勝者の日本大学・斎藤選手。長谷川君自身は、インカレ準々決勝において微妙な判定で涙を飲んでいただけに、喜びもひとしお。大学レスリング界に「青学・長谷川」の時代が到来したことを高らかに告げる勝利となりました。

居合道部・小倉君、第37回東日本学生居合道大会で優勝

2004年10月10日（日）、成蹊大学で行われた「第37回東日本学生居合道大会」において、本学居合道部主将 小倉悠一君（史学科4年）が個人戦で優勝を果たしました。 本学の個人戦優勝は7年ぶり。また、団体戦でも全員の力で優勝を勝ち取りました。続いて11月28日（日）に同志社大学で開催されたインカレでは、団体戦を全日本ベスト4で締めくくり、来シーズンへの大きな期待をつなぎました。

卓球部・阿部&山崎ペア、全日本学生選手権優勝

2004年10月7日（木）～10日（日）、愛知県体育館で開催された「第71回全日本学生選手権大会」において、本学卓球部の阿部恵さん（教育学科1年）、山崎知春さん（第二部教育学科1年）のペアが、見事、ダブルスで優勝。ふたりとも1年生ながら、大学生ダブルス最高峰の大会を制しました。阿部、山崎両選手以外にも新人戦優勝を果たした1年生ペアもおり、2005年度のシーズンは「1部リーグ優勝」が期待されます。

（写真提供:体育会広報愛好会青山スポーツ）

2004年度の就職活動について

就職部事務部長
川上 功

●2004年度就職部の支援状況

就職部における学生への支援活動は、次の3つに分類することができます。

1. 求人開拓
2. 進路・就職支援行事の開催
3. 個別学生相談

2004年度はこのうち1.「求人開拓」、そして2.「進路・就職支援行事の開催」における第二部（夜間部）学生の支援行事について重点項目として取り組みました。

インターネットの普及により、多くの学生の応募する人気企業は自社のホームページを利用した採用を展開しており、大学宛に求人票を発送しなくなっています。全国のあらゆる大学の学生が、一斉に同一情報を閲覧することができる一方、いかにそれ以上の情報を入手できるかが重要になってきていると言えるでしょう。就職部では、人気企業ばかりでなく、長年に亘り本学の学生を採用していただいている実績のある企業や、専門分野で圧倒的なシェアを誇る優良企業を発掘すべく、就職行事や個別相談の合間を縫って積極的な企業開拓を展開しています。

第二部（夜間部）学生の場合、キャンパス滞在時間が少ない傾向があります。そこで就職部では、第二部（夜間部）学生たちが資料室の利用や就職行事への参加がしやすいよう時間帯を考慮し、職業興味テストの複数回実施や、内定後の4年生による体験報告会、授業の合間の時間帯を利用した二部学生セミナーなどを開催しました。

●2004年度就職戦線の動向

2004年度は、日本経団連による呼びかけに応え、選考時期を4月以降に遅らせた企業も多く、それに伴い内定辞退が重なって夏季・秋季の採用が増えました。例年、求人は3月末まで続いているのですが、従来は夏休みを過ぎるとほとんどの学生がリクルートスーツを脱いでしまうケースが目立ちました。しかし、2004年度は夏以降もねばり強くじっくりと活動を続け、最終的に自分を認めてくれる企業への内定を勝ち取った4年生が多くいました。

就職部としても、こうした動きと学生の熱意を尊重し、昨年度は11月から3年生向けに実施していた学内での企業説明会を年明けの後期試験終了後にスタートさせることにしました。3年生には9月末からのガイダンスで各自の進路について十分考えてもらい、業種や職種への理解を深め、自信を持って興味ある企業の説明会に参加できるようにとの配慮からです。幸い本学は立地条件も良く、多くの企業の方々に足を運んでいただいています。しかし、企業や大学の「お膳立」を待つのではなく、自ら積極的に外に働きかける勇気をぜひ身につけてください。それが就職活動の明暗を分ける鍵とも言えるからです。

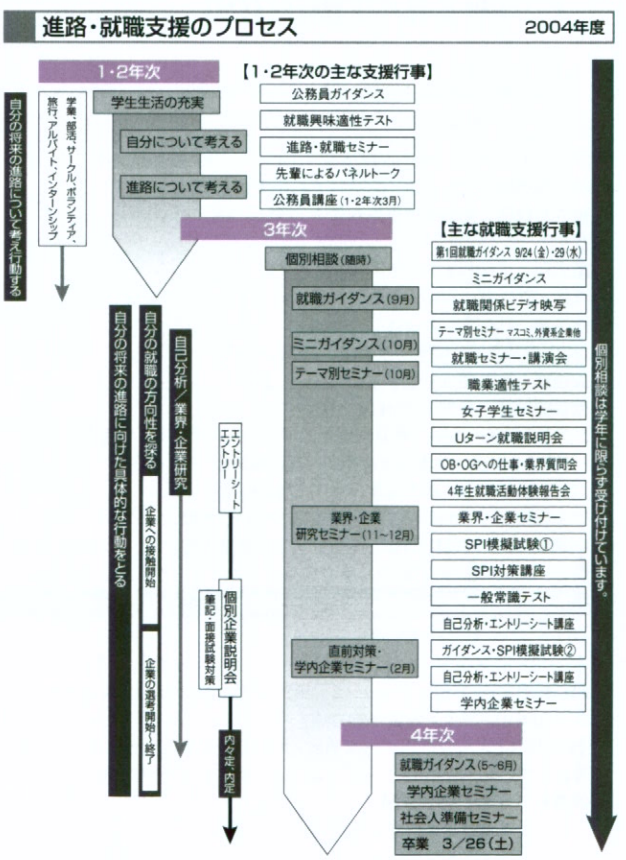
●納得する就職を実現するために

納得する進路を見つけるためには、1～2年生のうちから、自分が何を目的として大学に入学したのか、また社会では何が必要とされ、自分のどのような能力が生かせるのかを考えて、4年間の過ごし方を自主的に選択することが重要です。学業を最優先することはもちろんですが、学生時代だからこそできるサークル、留学、ボランティア、アルバイトなどで他者との関わり方を学ぶことも、現代社会で生きる力をつける大切な機会となります。

青山学院には、130年の歴史と豊かな人材を育成する教育方針があります。そうした土壌で成長し、社会で活躍している多くの卒業生が後輩たちを待っています。多くの卒業生の方々とのより強い連携も、就職部としての今後の大きな課題ととらえています。

●進路・就職支援体制の充実

2005年度、これまでの就職部が「進路・就職センター」として新たに歩み出します。入学時より相模原キャンパスで学んだ初めての3年生を青山キャンパスに迎え、新しい体制で低学年から卒業後までを視野に入れた進路・就職支援を展開していく予定です。



卒業の決まった4年生のみなさんへ
卒業後の進路の報告について

青山学院大学では、卒業の決定した4年生全員に卒業後の進路を報告していただいています。

青山キャンパスの4年生は、就職部（1号館1階）に「進路決定届」を、理工学部生は相模原キャンパス進路グループ（B棟1階）に「進路先届」を提出してください。

報告いただいた内容は、進路状況のデータをまとめた「卒業生進路状況報告書」として学内で利用されます。個人の名前や就職先が学外に公表されることは決してありません。また、官公庁などへの統計資料として必要となりますので、必ず報告してください。民間企業や公務員・教員などに内定された方には、「就職活動報告書」を提出していただいております。この報告書は、後輩の就職活動に大変役立っておりますので、併せてご提出をお願い致します。

青山学院大学長　武藤 元昭
就　職　部　長　仁科 貞文

◇進路報告書の提出先
青山キャンパス（文・社会科学系学部）　→就職部へ「進路決定届」を提出
相模原キャンパス（理工学部、理工学研究科）→学生支援ユニット進路グループへ「進路先届」を提出
（文・社会科学系の大学院生については、学位記を受け取る際に、進路に関する調査用紙をご提出いただきます）

WTO研究センター主催公開セミナー「WTO加盟後の中国農政と中国食品市場動向」

2004年12月17日（金）、青山キャンパス総合研究所ビル第11会議室において、本学WTO研究センター主催公開セミナー「WTO加盟後の中国農政と中国食品市場動向」が開催されました。講師は、農林中金総合研究所副主任研究員を務める阮蔚（Ruan Wei）氏。自らの目で実際に確かめながら行われる同氏の分析調査は、専門家の高い評価を得ており、講演当日も会場に集まった多くの聴衆が熱心に聞き入っていました。

青山学院、日本格付研究所（JCR）より「AA+」の格付けを取得

2005年1月、学校法人青山学院は、（株）日本格付研究所（以下「JCR」）より、長期優先債務格付け「AA＋」を取得しました。すでに昨年夏、青山学院は国際金融市場でのグローバルスタンダードとなっている米国の格付け会社スタンダード&プアーズより長期発行体格付け「AA－／安定的」を取得しています。今回、国内有数の格付け会社であるJCRより格付けを取得したことにより、本学院は国内・国外両方の格付け機関より客観的な第三者評価を得られたことになります。この評価を励みとして、今後とも教育、研究、経営、社会貢献の総合的な質のさらなる向上に努めていきます。

Club & Circle Information

問い合わせ先　〒150-8366
青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。
下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定（2005年4月～5月）

アイススケート部　第54回大学アイスホッケー選手権大会（4月）
硬式庭球部　関東学生テニストーナメント大会（4・5月）
硬式野球部　東都大学野球春季リーグ戦（4・5月）
サッカー部　JR東日本カップ2005第79回関東大学サッカーリーグ戦（前期）（4～6月）
柔道部　全日本基督教関係大学柔道大会（5月）
準硬式野球部　東都大学準硬式野球リーグ戦（春季）（4・5月）
水泳部　日本選手権（4月）
ソフトテニス部　関東学生春季リーグ戦（4・5月）
卓球部　春季関東学生卓球リーグ戦（4・5月）
軟式野球部　春季リーグ戦（4・5月）
バスケットボール部　第54回関東大学バスケットボール選手権大会（5月）
バドミントン部　関東学生春季リーグ戦（4・5月）
バレーボール部　春季関東大学リーグ戦（4・5月）
陸上競技部　第84回関東学生陸上競技対抗選手権大会（5月）
吹奏楽バトントワリング部　東京都大学吹奏楽連盟アンサンブルコンサート（5月）
グリーンハーモニー合唱団　第47回東京六大学混声合唱連盟定期演奏会（5月）

主要活動報告（2004年12月～2005年2月）

グリーンハーモニー合唱団
第50回定期演奏会　於：昭和女子大学　人見記念講堂（12/12）
第二部合唱部コール・フロッシュ　第39回定期演奏会　於：青学講堂（12/12）
オール青山メサイア公演（12/23）
【参加団体】グリーンハーモニー合唱団／オラトリオ・ソサエティ合唱団／聖歌隊／第二部聖歌隊／第二部合唱部コール・フロッシュ／女子短期大学聖歌隊／オーケストラ部
吹奏楽バトントワリング部
全日本吹奏楽連盟東京支部第28回アンサンブルコンサート 銀賞（1/30）

「各国大使講演シリーズ」第3回 ヒシャム・バドル 駐日エジプト大使講演

各国大使講演シリーズ「大使と語る」の第3回として2004年12月14日（火）ヒシャム・バドル駐日エジプト大使の「アラブ世界と日本」と題する講演が行われました。

今回からジャパン・タイムズ、毎日新聞社共催、外務省後援となり、本学の学生および教職員に加え、学外から中東に関心をもつ方々、合わせて約120名が参加しました。以下はその概要です。

現代国際社会では、経済をはじめ各国の格差がますます広がっています。また、冷戦後は内政干渉も行われています。見方によっては、正義が崩壊しているようにみえます。とくに中東問題に関しては、ダブル・スタンダードがあります。たとえば米国はイラクやイランの大量破壊兵器は問題にするのに、イスラエルの核保有について沈黙しています。テロリズムについても、中東では長年テロに悩まされてきたのに、世界は中東のテロに目を向けませんでした。しかし、アメリカがテロの標的になったとたんにテロとの国際的な戦いが始まりました。

さらに中東におけるテロの根源にあるのは文化や宗教の違いではなく、イスラム社会にある怒りと焦燥感であると大使は指摘します。テロリストはこれらを政治的に悪用しているのであり、テロがなぜ起こるかを正しく理解することが重要です。「文明の衝突」もまた誤った考え方です。文明によって善悪や優劣があるわけではないし、どの文明も何らかの形で歴史や世界に貢献してきました。イスラム文明もまた同様です。ヨーロッパ文明対イスラム文明という座標軸はありません。それゆえ、現代世界の問題の根源を宗教の対立に求める考え方は誤りだと大使は指摘します。むしろ今必要なのは文明の衝突論を吹聴することではなく、文明間の対話を促進することなのだ、と。

エジプトは中東における親米国のひとつですが、今回の講演では随所に厳しい米外交批判が聞かれました。日本に対しては終始一貫して好意的姿勢を示されましたが、日本がパレスチナ・イスラエル和平にもっと目を向けて中東問題に積極的に道義的主張をしてほしいと大使は強調しました。

講演の後、参加者からの質問に対し一つ一つ丁寧に応えている姿から大使の誠実な人柄が伺えました。日本がこのようなアラブ世界の穏健派の声にこれからどこまで応えられるかが、日本と中東関係の将来を決める大きな要因となるでしょう。

最後に、エジプト大使館、ジャパン・タイムズ、毎日新聞社、国際政治経済学部など、関係各位に対し心からお礼を申し上げる次第です。
（庶務部庶務課）

新規交換協定校について

このたび新たに4校が、本学の交換留学協定校となりました。

本学が海外の協定校を決定するにあたっては、いくつかの基準があります。まず重視しているのは、相手の大学が「質の良い教育を提供し、本学の学生を派遣するために適切な学習環境を有しているか」ということです。さらに「日本語を学ぶ学生がいるか」「両大学の学事暦が適合するか」といった点も考慮されます。

また、第二外国語として開講しているにもかかわらず、その言語が使われている地域に協定校不在というケースがあり、こうした地域に新しく協定校を開拓することも急務です。

海外大学との協定締結は、相手校のイニシアチブによることもありますが、本学教員による紹介、学生の要望・ニーズを考慮した上で、本学からの働きかけで実現することもあります。国際交流センターでは、今後も新規協定校の開拓に力を注いでいく予定ですので、留学に関心を持つ学生のみなさんのご意見・ご要望をお待ちしています。

Texas Christian University

北京外国語大学

Université Paris III - Sorbonne Nouvelle

University of British Columbia

●新規協定校

Université Paris Ⅲ - Sorbonne Nouvelle（フランス）
University of British Columbia（カナダ）
Texas Christian University（アメリカ）
北京外国語大学（中国）

●協定校（43校）

韓国…… 4校	オーストラリア…2校	フランス……2校
マレーシア… 1校	タイ……2校	台湾……1校
中国…… 3校	エクアドル……1校	アメリカ……19校
香港…… 1校	イギリス……2校	ドイツ……2校
ロシア…… 2校	カナダ……1校	

「大学オルガニスト養成講座」受講生発表会

「大学オルガニスト養成講座」受講生による発表会が相模原キャンパスでは12月16、17、21、22日の昼休みにウェスレー・チャペルで、青山キャンパスでは2月1日（火）17時30分よりガウチャー記念礼拝堂にて行なわれました。演奏は2004年度に各キャンパスで開講された、岡井晃、堀井美和子、作井清雅子、筒井淳子、飯靖子、鷲晶子クラスの受講生27名によるもので、受講生の1年間のレッスンの集大成としてそれぞれが精魂込めて準備し、素晴らしい演奏を捧げ、あらためてオルガン音楽の豊かさ深さを堪能させられる祝福された一時となりました。

長尾隆央さん（理工学研究科生）がNIDays 2005「アカデミックコンテスト2004」優秀賞を受賞

2005年1月19日（水）東京ビックサイトで開かれた日本ナショナルインスツルメンツ株式会社主催Virtual Instrumentation テクニカルシンポジウムNIDays 2005 World Wide Visual Instrumentation Conference「アカデミックコンテスト2004」で、長尾隆央さん（大学院理工学研究科機械創造コース博士前期課程1年、林 光一研究室所属）が優秀賞を受賞しました。

このアカデミックコンテストは、技術者・研究者、学生を対象に、ナショナルインスツルメンツ社製品を用いて作成されたアプリケーションを募り、技術、コスト、革新性などの面からコンピュータベース計測・テストオートメーションを審査するコンテストです。

長尾さんは、「燃焼振動研究における計測系の構築および実験自動化」として、燃焼振動の計測・解析システムを開発し、効率的な燃焼振動の計測方法を提案しました。

文学部 冨山太佳夫教授が「第3回毎日書評賞」を受賞

2005年1月、毎日新聞社が主催する「第3回毎日書評賞」受賞作に、文学部英米文学科 冨山太佳夫教授の『書物の未来へ』（青土社刊）が選ばれ、1月28日(金)に丸の内パレスホテルにおいて授賞式が行われました。同書は冨山教授が毎日新聞に掲載した128冊の書評とその他のエッセイを収録。書評は戦争、歴史、国語問題、ミステリー、前衛小説、さらに英和大辞典まで幅広く取り上げ、新聞連載中より読書家の間で大きな話題を呼びました。なお、「毎日書評賞」は、毎日新聞社創刊130周年を記念し、書評文化の発展を願い創設されたものです。

卒業生へのメッセージ

今春、卒業する皆さんへ

校友会会長　安藤 孝四郎

今春、本学を卒業する学部生・研究科生の皆さんに心からお祝いを申し上げます。

青山学院大学の卒業生は、約17万人を超えるまでになりました。今日、大学の社会的評価は、これら卒業生の社会における活動によってなされるといわれています。これから巣立っていく皆さんの活躍が大いに期待されるところです。

さて、卒業する皆さんにはもう一つの世界があります。それは「青山学院校友会」に参加するということです。青山学院の卒業生は全員、正会員として校友会に迎えられます。

設立112年の歴史をもつ「青山学院校友会」は、全国の都道府県や主要都市に「支部」があり、その組織は海外にも拡がっています。また学部・学科には、それぞれ「学部同窓会」や「学科同窓会」が結成されているので、これらに積極的に参加されるようお勧めします。毎年9月23日に開催される大学同窓祭（ホーム・カミングデー）に是非参加してみてください。学生時代とはまた違う青学を体験できると思います。

校友会は校友（卒業生）相互の親睦と母校との絆をつなぐために、諸先輩が長い歴史を経て作り上げて来た組織です。効率優先の競争社会にあって、キリスト教主義による教育を標榜する建学の精神は校友会にあっても正しく受け継がれております。諸先輩との交流は皆さんの人生を必ず有意義なものにしてくれることと思います。

青山学院校友センター

校友センター窓口案内

「青山学院校友センター」は卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口です。センターでは、同窓会、校友会の地方支部および海外支部、各種OB会、クラス会等の紹介・取次をはじめ、「青山学院維持協力会」の入会受付、「青山学報」定期購読の申込受付、校友会集会室利用の申込受付、さらに校友向け情報誌「AOGAKU Chimes」の発行・発送など、さまざまな活動を展開。また、卒業生全員が会員となる「青山学院校友会」の本部事務も担当しています。これらの活動には卒業生の基本情報が不可欠です。個人情報の管理には最大限の注意を払っておりますので、住所・氏名等の変更がありましたら、必ず校友センターまでご連絡ください。

「AOGAKU Chimes」（あおがく チャイムズ）について

青山学院卒業生全員を対象に情報誌「AOGAKU Chimes」を年1回発行しています。青山学院の情報を全卒業生に等しく伝えることと、積極的な情報発信を目的としています。最新号の第5号では、校友が利用できる施設等の実用情報満載の「もう一度「青学生」」を特集。そのほか卒業生や教員へのインタビューや「青学オリジナルグッズ」など多彩な誌面作りを行っています。

発行は青山学院と青山学院校友会が共同で行っています。今後さらに誌面を充実させるためにも、卒業生の皆様のご感想・ご意見をお寄せください。

ホームページもご覧ください。http://www.alumni-aogaku.or.jp

保存版 卒業後の連絡先一覧

03-3409-8111（代表・青山キャンパス）
042-759-6000（代表・相模原キャンパス）

大学ホームページ
http://www.aoyama.ac.jp

	担当事務局	お問い合わせ先	備　考
卒業・修了、成績証明書の交付	学務部教務課	03-3409-7830	人文・社会科学系学部対象　※第二部（夜間部）を含む
	学生支援ユニット学務グループ（※）	042-759-6003	理工学部・理工学研究科対象
	大学院事務室	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学研究科対象
	専門職大学院事務室	03-3409-8025	国際マネジメント研究科対象
科目等履修生案内	学務部教務課	03-3409-8047	人文・社会科学系学部対象　※第二部（夜間部）を含む
	学生支援ユニット学務グループ（※）	042-759-6003	理工学部・理工学研究科対象
	学務部教職課程課	03-3409-9634	教職課程対象
	学生支援ユニット学務グループ（※）（教職課程担当）	042-759-6032	
	大学院事務室	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学研究科対象
科目履修生案内	専門職大学院事務室	03-3409-8025	法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
基礎資格および単位修得証明書の交付	学務部教職課程課	03-3409-9634	免許状授与証明書は、教育庁へお問い合わせください。
	学生支援ユニット学務グループ（※）（教職課程担当）	042-759-6032	
公開講座案内	庶務部庶務課（公開講座担当）	03-3409-7955	3月上旬より「2005公開講座 GUIDE BOOK」を配布予定です。
図書館の利用	図書部運用課閲覧係	03-3409-7858	卒業生の図書資料の貸出には、利用カードの申請が必要です。http://www.agulin.aoyama.ac.jp
	教育・学習支援ユニット図書グループ（※）	042-759-6027	
大学院案内	大学院事務室	03-3409-7831	文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学研究科対象
	学生支援ユニット学務グループ（※）	042-759-6033	理工学研究科対象
専門職大学院案内	専門職大学院事務室	03-3409-8025	国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象
キリスト教に関する相談（教会紹介など）	宗教センター（間島記念館1F）	03-3409-6537	
住所・氏名変更連絡先 「青山学報」定期購読の受付 「青山学院維持協力会」の入会受付 校友会支部連絡先紹介 校友会集会室利用の申込受付 校友会総会への出席受付	青山学院校友センター 青山学院校友会本部 （アイビーホール青学会館2F）	03-3409-6645 03-3409-9773 FAX 03-5485-3616	校友会ホームページ http://www.alumni-aogaku.or.jp 校友センターホームページ http://www.aoyamagakuin.jp/acenter/index.html E-mail agkoyu@jm.aoyama.ac.jp alumni@jm.aoyama.ac.jp
学院の歴史資料展示	資料センター（間島記念館2F）	03-3409-6742 FAX 03-3409-8134	青山学院史の資料展示とビデオによる上映を一般公開しています。
寄付・冠奨学金の申込受付 遺贈による寄付相談窓口	総合企画部募金室（法人本部3F）	03-3409-6208	「AOGAKU EVERGREEN21募金」（2004.11～2009.12）の事務局でもあります。
大学同窓祭	大学同窓祭実行委員会事務局 （ウェスレー・ホール3F）	TEL・FAX共通 03-3409-8990（直通）※月・水・金のみ	今年も9月23日（金・祝）に開催する予定です。実行委員としてお手伝いしてくださる仲間を募集中です。
青山会ネットワークへの加入 （業種別「青山会」問い合わせ）	青山会ネットワーク事務局 （アイビーホール青学会館内／担当:永田）	03-3409-8181（代表）	「青山学院の発展に寄与」、「会員相互の交流」を目的として設立された企業人の会。業種別「青山会」の組織づくりを推進し、異業種間交流を図っています。 http://www.ki.rim.or.jp/~aokainet
婚礼・会合施設	ブライダルサロン （アイビーホール青学会館内）	03-3409-8181（代表）	懇親会・同窓会・クラス会・OB会・アドグル・ゼミでの会合などにご利用ください。校友には、割引特典があります。 http://www.aogaku-kaikan.co.jp

（※）相模原キャンパス

●AGUニューズのバックナンバーは、大学ホームページでご覧になれます。

2005年度 首都圏父母懇談会

本学では、大学後援会事業の一環として、大学の近況をご父母の皆様にお知らせするとともに、ご子女の大学生活等についてのご相談やご意見をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に父母懇談会を実施しています。

首都圏在住の2・3年生のご父母を対象とした父母懇談会の日程は、右表を予定しています。対象の方には4月下旬以降に改めてご案内いたします。また、地区父母懇談会の日程は次号でお知らせします。

【お問い合わせ先】　庶務部庶務課（父母懇談会担当）　TEL. 03-3409-8568

東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県にお住まいのご父母を対象

対象学部・学年	開催日
経済学部／経済学部第二部 2・3年生	5／21（土）
経営学部／経営学部第二部 2・3年生	5／28（土）
法学部 2・3年生	6／ 4（土）
国際政治経済学部 2・3年生	6／11（土）
文学部／文学部第二部 2・3年生	6／18（土）
理工学部 2・3年生	10／ 9（日）

※日程が変更になる場合があります。

青山学院大学教育ローン

[特徴]

1.一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2.担保・保証人は不要です（学生本人が融資を受ける場合、銀行によっては保証人が必要になります）。
3.在学期間中の元金返済据置の制度もあります（在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます）。
4.原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振込まれます。
5.既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

[利用資格]

本学学部生・院生の保護者または学生本人で**銀行の定めた資格を有する**ことが必要です。

[必要書類]

1.資金使途確認資料…学費納付書等
2.本人確認資料……印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか一通
3.所得確認資料……所得証明書、源泉徴収票等のいずれか一通

[注意事項]

1.契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
2.融資は学費（授業料他）等の教育資金に限ります。
3.銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。
4.年間学費相当分の借り入れを希望する場合は、前期分学費納付用紙・後期分学費納付用紙が必要です。この場合、青山キャンパス所属の学部生は学生課、院生は大学院事務室、専門職大学院生は専門職大学院事務室、相模原キャンパスの学部生・院生は学生生活グループへ申し出てください。必要な学費振込用紙を発送いたします。

[提携銀行]

三井住友銀行	渋谷支店お客様2課	TEL 03-3463-0102
みずほ銀行	渋谷中央支店ローン担当係	TEL 03-3462-0315
りそな銀行	渋谷支店ローン担当係	TEL 03-3498-3211
UFJ銀行	青山支店ローン担当係	TEL 03-3409-3211
横浜銀行	渋谷支店ローン担当係	TEL 03-3463-2151

2004年度 退職専任教員

2005年3月末日をもって退職される専任教員は次の方々です。（○印は定年退職される教員）

○吉田　廸子	文学部英米文学科教授
鈴木勇一郎	文学部助手
小屋菜穂子	文学部体育実技助手
流郷　吐夢	文学部体育実技助手
佐野　智子	文学部心理学科助手
伊藤　敬也	法学部法学科助手
○小林　三郎	経営学部経営学科教授
斎藤　真哉	経営学部経営学科教授
○小原　　信	国際政治経済学部教授
○黒田　　充	理工学部経営システム工学科教授
○二宮　理憲	理工学部情報テクノロジー学科教授
○伊原信一郎	理工学部物理・数理学科教授
○木村　臣司	理工学部物理・数理学科教授
名倉　　剛	理工学部電気電子工学科助手
竹内　俊彦	理工学部経営システム工学科助手
刈　　城剛	理工学部経営システム工学科助手
吉澤　有美	理工学部情報テクノロジー学科助手
銭谷　勇磁	理工学部物理・数理学科助手
水野　統太	理工学部物理・数理学科助手
○髙森　　寛	国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻教授
○鴇田　正春	国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻教授
○林　　吉郎	国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻教授

その他の月日をもって退職された教員

沼田　　哲	文学部史学科教授（2004年6月19日逝去）
岩崎　三郎	文学部教育学科教授（2004年9月21日逝去）
新保　生二	国際政治経済学部国際経済学科教授（2004年10月26日逝去）

「青山学院大学経済支援給付奨学金」がスタート

2004年11月、青山学院大学は、新しい奨学金制度として「青山学院大学経済支援給付奨学金」を施行しました。

●支給目的
経済的理由により学費を納入することが困難になった学生に対し、経済的支援を行うことによって成業が見込め、学業を終えることができる環境を整える

●受給資格
学部3年次生と4年次生、大学院博士前期課程と修士課程の2年次生、さらに専門職大学院2年次生（3年コースの場合は3年次生）を対象としたもの。

●給付額
1年間の学費相当額を限度とする。

●給付期間
1年間（採用年度限り）

なお、日本学生支援機構（旧日本育英会）奨学金、民間や地方自治体の奨学金制度のほか、「青山学院万代奨学金」「青山学院大学給付奨学金」「青山学院スカラーシップ奨学金」など本学独自の奨学金制度があります。

2005年度 公開講座

お問い合わせ先　青山学院大学　庶務部庶務課企画運営係（公開講座担当）
〒150-8366　東京都渋谷区渋谷4-4-25　TEL. 03-3409-7955（直通）
本学公開講座ホームページ　http://www.aoyama.ac.jp/extension/index.html

本学では、大学での教育および研究の成果を広く社会に開放し、社会人の教養を高め、文化の向上に資することを目的に、地域社会への貢献という使命から1990年より公開講座を開講しています。

2005年度は青山キャンパスにて6講座、相模原キャンパスにて4講座の計10講座と、仙台市、高崎市、名古屋市にて公開講演会を開催する予定です。

本学公開講座では年齢や資格による受講の制限はなく、どなたでも受講いただけます。各講座の内容・申込方法などの詳細を掲載した「2005公開講座GUIDE BOOK」は3月上旬に完成予定です。ご希望の方は、上記までお問い合わせください。

●青山キャンパス開講（14:30～16:00　※19:00～20:30）

青山学院大学（前期）　近代日本キリスト者の信仰と倫理

4/23（土）植村 正久―志の神学とキリスト教―
青山学院大学　国際政治経済学部教授　鳩田 順好

4/30（土）本多 庸一―キリスト教の血肉化・教会と政治―
青山学院大学　名誉教授　氣賀 健生

5/7（土）内村 鑑三―日本的キリスト教の創造―
青山学院大学　国際政治経済学部教授　小原 信

5/14（土）羽仁 もと子―神の国とキリスト教教育―
国際基督教大学　名誉教授　古屋 安雄

5/21（土）賀川 豊彦―社会問題とキリスト教―
青山学院大学　経済学部教授　本間 照光

青山学院大学（前期）　ビジネスと法の架け橋―ビジネスローの諸問題―

5/28（土）商法改正とビジネスロー
青山学院大学　法学部教授　土橋 正

6/4（土）企業の社会的責任とビジネスロー
青山学院大学　法学部助教授　藤川 久昭

6/11（土）企業組織法とビジネスロー
青山学院大学　大学院法務研究科教授　吉田 直

6/18（土）企業の知的財産とビジネスロー
青山学院女子短期大学教授　菊池 純一

6/25（土）企業取引法とビジネスロー
青山学院大学　法学部教授　重田 晴生

青山学院大学（前期）　北東アジアの経済的変容と安全保障 ※

7/1（金）経済変容と地域安全保障―理論的考察―
青山学院大学　国際政治経済学部教授　山本 吉宣

7/8（金）北朝鮮の経済―起源・形成・崩壊―
青山学院大学　国際政治経済学部教授　木村 光彦

7/15（金）北朝鮮の核開発問題と日本の安全保障―多国間協議と二国間協議―
杏林大学　総合政策学部教授　倉田 秀也

7/22（金）中国の経済発展―合わせて今後の日中経済関係を考える―
青山学院大学　国際政治経済学部教授　中兼 和津次

7/29（金）中国と安全保障
青山学院大学　国際政治経済学部教授　高木 誠一郎

渋谷区教育委員会・青山学院大学共催（前期）　女性とリーダーシップ

7/2（土）元気な欧米の女性達に学ぶリーダーシップ
青山学院大学　大学院国際マネジメント研究科非常勤講師　熊平 美香

7/9（土）女性の活力を日本の活力に―官庁、民間企業を経てNPOへ―
女子教育奨励会理事長　木全 ミツ

7/16（土）女性をサポートする21世紀型ヒューマン・ネットワーク・ビジネス―ベビーシッター会社を起業して―
株式会社ファミリー・サポート代表取締役社長　中舘 慈子

7/23（土）ビジネス社会における女性とリーダーシップ―マーケティング発想と女性の視点―
青山学院大学　大学院国際マネジメント研究科教授　松浦 祥子

7/30（土）女子学生を育てる教育とは
青山学院女子短期大学教授　加納 孝代

渋谷区教育委員会・青山学院大学共催（後期）　さまざまな心理療法から

9/17（土）ユング派心理療法―無意識の治癒力―
放送大学　大学院教授　大場 登

9/24（土）エンカウンターグループ―学生の発達点観点から―
青山学院大学　学生相談センター非常勤カウンセラー　櫻井 信也

10/1（土）遊戯療法―子どもの癒し―
青山学院大学　学生相談センター専任カウンセラー　葛生 聡

10/8（土）森田療法―生きることの探求―
日本女子大学　人間社会学部教授　北西 憲二

10/15（土）内観法―幸せへの道―
青山学院大学　法学部教授　石井 光

青山学院大学（後期）　都市の中の大学―青山学院と周囲の街―

11/5（土）青山学院に集った人々―ヴィジュアルな歴史庫としての資料センター―
青山学院資料センター係長　傳農 和子

11/12（土）日本近代のキリスト教教育と芸術―日本近代の美術で聖書はどのように表現されたか―
青山学院女子短期大学教授　大野 芳材

11/19（土）創造的環境としての大学キャンパス
青山学院女子短期大学教授　黒石 いずみ

11/26（土）ベンチャー孵化器としての都市と大学―なぜITベンチャーは都心に集うのか―
青山学院大学　国際政治経済学部教授　港 徹雄

12/3（土）青山学院の地域貢献―渋谷・原宿・青山のまちづくり―
青山学院大学　経営学部教授　井口 典夫

●相模原キャンパス開講（14:30～16:00）

青山学院大学（前期）　世界史の中の「帝国」

5/14（土）中華帝国―史上最長の帝国―
青山学院大学　文学部教授　相田 洋

5/21（土）スペイン帝国―グローバルネットワークの出現―
青山学院大学　文学部助教授　安村 直己

5/28（土）ローマ帝国―古代の帝国主義?―
青山学院大学　文学部教授　阪本 浩

6/4（土）ムガル帝国―インド・イスラム帝国 首都デリー―
青山学院大学　文学部教授　小名 康之

6/11（土）大英帝国―虚飾の帝国―
青山学院大学　文学部教授　平田 雅博

青山学院大学（前期）　脳を育てる

6/18（土）脳にみる「氏より育ち」―脳の発育過程とこれに対する外部因子の影響―
青山学院大学　理工学部教授　田代 朋子

6/25（土）脳内回路のしくみ
北里大学　医学部教授　高橋 正身

7/2（土）脳を守る食事
青山学院大学　理工学部教授　福岡 伸一

7/9（土）自閉症の世界　その色と形と音―コミュニケーションの成り立ちを考える―
九州大学　大学院人間環境学研究院助教授　神尾 陽子

7/16（土）個を育む社会―発達心理学の視点から―
青山学院大学　文学部教授　山根 律子

青山学院大学（後期）　イエスとは誰か―その生涯が現代に問いかけるもの―

10/15（土）イエスの生涯―その背景としての旧約聖書―
青山学院大学　理工学部教授　大島 力

10/22（土）イエスの教え―その現代的意味―
青山学院大学　経済学部教授　東方 敬信

10/29（土）イエスの奇跡と愛の実践
青山学院大学　文学部助教授　伊藤 悟

11/5（土）イエスの十字架―神の義と愛の衝突―
青山学院大学　国際政治経済学部教授　鳩田 順好

11/12（土）死と死後の世界―イエスの復活が現代人に意味するもの―
青山学院大学　法学部教授　廣瀬 久允

市民大学 青山学院大学コース　IT化・デジタル化が私達の生活にもたらすもの

11/19（土）IT化・デジタル化による電波環境と諸問題―IT化に伴う電波吸収体の必要性―
青山学院大学　理工学部教授 橋本 修

11/26（土）IT化と企業の生産性―自分のものは自分で作ろう―
青山学院大学　理工学部助教授　松本 俊之

12/3（土）IT化・デジタル化による音楽配信
―日本での携帯向け音楽配信の成功とパソコン向け音楽配信の行方―
エイベックスネットワーク株式会社取締役　上田 正勝

12/10（土）IT化・デジタル化のもたらす法的諸問題―紙媒体から電子媒体へ―
青山学院大学　法学部教授　西澤 宗英

12/17（土）IT化・デジタル化の地域社会への影響
青山学院大学　経済学部助教授　三條 和博

公開講演会

7/16（土）刑事裁判の新しいあり方―「裁判員」制度をどう受けとめるか―　仙台市
○第一部：裁判員制度で呼び込む地方の活力―「裁判員」を楽しむ6つの活用法―
青山学院大学　大学院法務研究科教授　新倉 修
○第二部：裁判員制度のもとでの刑事裁判
青山学院大学　法学部教授　西澤 宗英

11/20（日）脳を育てる　高崎市
○第一部：脳の発達と環境分子―DNAマイクロアレイを用いたリスク評価―
青山学院大学　理工学部教授　田代 朋子
○第二部：脳を守る食事
青山学院大学　理工学部教授　福岡 伸一

11/26（土）現代の非行をとらえる　名古屋市
○第一部：現代の非行と少年法
青山学院大学　法学部教授　酒井 安行
○第二部：子どもの心を癒すために
青山学院大学　法学部教授　石井 光

※講座テーマ等に変更が生じる場合があります。2005年2月15日時点の情報です。

シュー土戸 ポール
文学部 専任講師
（大学宗教主任）

誌上公開講座 No.26

青山スタンダード

教養コア科目 キリスト教理解関連科目 「キリスト教概論I」

キリスト教信仰に基づいた全人的な人間教育を展開してきた青山学院の130年の歴史……。「キリスト教理解関連科目」は、そうした本学の教育・研究のバックボーンへの理解を深める科目群です。今回の「誌上公開講座」で取り上げるのは、そのうち“キリスト教入門”ともいえる「キリスト教概論I」。大学宗教主任であり、この講義を担当されているシュー土戸 ポール文学部専任講師に紹介していただきました。

青山学院大学の教育の柱であり 人々の生き方に示唆を与える 「キリスト教」を理解するために

青山学院大学は、キリスト教の理念を掲げる大学です。しかし、本学に入学してくる学生の多くは、それまでの人生の中で、キリスト教と深く接する経験があまりなかったのではないでしょうか?

そこで「キリスト教概論I」の授業では、キリスト教に初めてふれる学生を対象として、キリスト教の中心的な思想や教えの全体像を、学際的な視点からわかりやすく講義することを大きな目標としています。

キリスト教は本学の建学の柱となっているだけではなく、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカなど世界各国において中心的な宗教であり、私たちの人生に有益な示唆と力を与えてくれるものです。本講義を通して、このように世界中の人々の生き方に影響を与えているキリスト教の精神とそれが持つ歴史的・社会的な意味を学ぶことにより、受講生は本学でそれぞれの専門分野を学ぶ意味を改めて問い直し、人間と世界を見る目を養うことができるでしょう。そして、それは一人ひとりが豊かな人生を送るためにたいへん重要なことなのです。

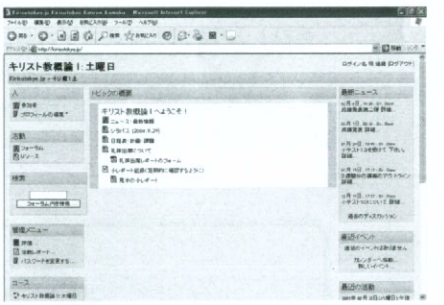
インターネットを駆使するなど さまざまなアプローチによって 「キリスト教」の本質に迫る

「キリスト教概論I」は以下の3つのポイントを中心に授業を進めていきます。

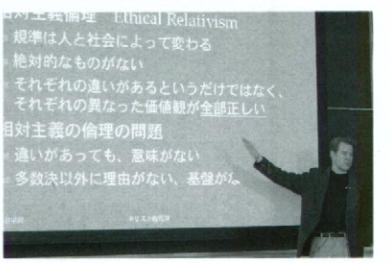
- 宗教学とキリスト教研究（文化人類学）
- キリスト教の神学（思想、教え、世界観）
- キリスト教の聖書

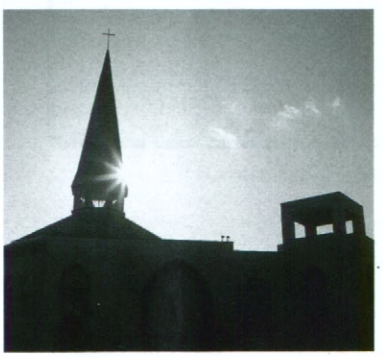
実際の授業は、授業のホームページやメールなどインターネットを駆使して行われています。授業のテキストとしては主として『聖書』（旧約聖書と新約聖書）、『神の前に真実に：キリスト教概論』（青山学院宗教センター編）を使用しています。また、イギリスのシェークスピア俳優として名高いブライアン・ディカンがイエス・キリストを演じた『ジーザスフィルム』などもキリスト教の精神を知る視聴覚教材として利用します。さらに授業での学び以外に、キリスト教の核である「礼拝」に出席することを重視していることも大きな特色です。受講者は最低限、大学礼拝に2回、学外の教会礼拝（訪れる教会は大学の宗教センターで紹介します）に1回出席し、レポートを提出してもらいます。

なお、大学ホームページ上では定期的な小テストを実施します。このテストは受講生それぞれが指定の期間・時間内に取り組めるようになっています。さらにホームページ上では、最新版のシラバス、授業予定の詳細、課題、教材・資料等を確認することができます。



このように本講義は、さまざまなアプローチと手法でキリスト教について学んでいきます。受講生には、キリスト教の基本的な知識を修得することはもちろん、積極的な興味と関心を持って講義を受けていただき、ぜひ、それぞれの“心”でキリスト教というものをしっかりと受けとめていただきたいと切に願っています。





INFORMATION

2005年度 大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験志願者数

2005年度大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験は、昼間部・第二部（夜間部）すべての出願が終了しました。一般入学試験の志願者数は、昼間部34,595名、第二部（夜間部）2,471名、合計37,066名（昨年度37,991名）となり、本年度新規に実施した大学入試センター試験利用入学試験の志願者は4,037名となりました。

なお、2005年度志願者数の詳細については、大学ホームページにて公開しています。

2005年度一般入学試験

AGU NEWS on web が変わります

大学ホームページのリニューアルに伴い、これまで「AGUニューズ」各号ごとにその内容を抜粋し、大学ホームページ上で紹介していた「AGU NEWS on web」は、今号をもって終了いたします。次号（No.27）より、「AGUニューズ」の掲載記事の内容については、大学ホームページの**「TOPICS」**で随時公開していきます。また、大学のタイムリーなニュースをお知らせしていた「Weekly AOYAMA」については大学ホームページの**「新着情報」**と融合します。さらに、在学生を対象として配布していた「AGUニューズレター」については、今後、大学の臨時ニュースをお知らせするために学内のAGUニューズ専用スタンドにて配布する予定です。

2005年度オープンキャンパス等開催日程

※予約不要・入退場自由。

詳細については、決定次第、大学ホームページにて随時お知らせします。

オープンキャンパス（全学部対象）※青山学院女子短期大学同日開催

7／3（日）	11:00〜16:00	場所:相模原キャンパス
7／17（日）※	10:00〜17:00	場所:青山キャンパス
9／24（土）※	11:00〜16:00	場所:青山キャンパス

社会人のためのオープンキャンパス

7／30（土）	14:00〜17:30	場所:青山キャンパス

本学への入学を希望する社会人等を対象に実施します。

高校1・2年生のための大学説明会

11／13（日）	10:30〜16:00	場所:青山キャンパス

高校1・2年生の早期より、本学への進学を希望している高校生とその保護者を対象に大学説明会を行います。

News Index 2004.12〜2005.2

WEEKLY AOYAMAのタイトル紹介

2004年12月上旬〜2005年2月中旬までの主なタイトルを掲載しています。

04年12月

- 全日本学生囲碁十傑戦で法務研究科 林 むつみさんが準優勝
- 青山学院大学グリーンハーモニー合唱団「第50回記念定期演奏会」のお知らせ
- 青山学院大学第二部合唱部Chor Frosch第39回定期演奏会のお知らせ
- クリスマス礼拝のお知らせ

05年1月

- 文学部日本文学科主催「国際学術シンポジウム」のお知らせ

05年2月

- 理工学部重里有三教授と株式会社ブリヂストンが色素増感太陽電池の耐久性向上を目指す新しい製造技術を共同開発
- 国際政治経済学部の学生2グループが「第15回ヤンマー学生懸賞論文・作文」優秀賞受賞

WEEKLY AOYAMAアドレス　http://www.aoyama.ac.jp/agunews/weekly.html

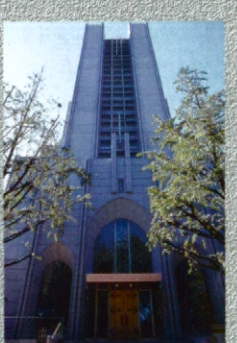
歴代院長とその時代 12

深町正信（ふかまち まさのぶ）

第12代現院長
（*1990*〜現在在任）

1959（昭和34）年東京神学大学を卒業し、1961（昭和36）年同大学院にて修士号を取得。清水女子高等学校（現清水国際高等学校）で宗教主任を務めた後、米国デューク大学大学院に留学し、帰国後は都内のいくつかの教会の牧師を約20年間務めました。その間、青山学院、恵泉女学園、東洋英和女学院で非常勤講師を務め、キリスト教学校教育にも深く関わりました。

青山学院には1984（昭和59）年国際政治経済学部教授として着任、大学宗教主任、学院・大学宗教部長を歴任し、1990（平成2）年に第12代院長に就任しました。就任後は幼稚園から大学院までを擁する総合学園である本学院の教学の統括者として、キリスト教信仰に基づく「建学の精神」の具現化を推進し、各部間の連携を重視した「青山学院一貫教育検討委員会」や「青山学院英語教育研究センター」を立ち上げるなどその具体化に取り組んでいます。また、米国ロサンジェルスでのドーラ・E・スクーンメーカー宣教師の墓碑再建や、英国オックスフォード大学リンカン・コレッジのステンドグラス修復基金献金など国際交流にも積極的で高い評価を得ており、アメリカン大学（米国）より名誉人文博士号を、啓明大学（韓国）より名誉教育学博士号を授与されています。



ガウチャー記念礼拝堂

学外でも、キリスト教学校教育同盟理事長（1995〜2003）を務めたほか、現在は社会福祉法人基督教児童福祉会理事長、財団法人日本キリスト教文化協会理事長、文部科学省国立行政法人評価委員会高等教育分科会委員長、世界メソジスト関係大学連盟（IAMSCU）のアジア地区代表などを務め、教育活動の実践と提言を国内外に行っています。

お詫びと訂正●前号AGUニューズ第25号13ページ「誌上公開講座」において、「テーマ別科目」の科目名称を誤って「教養コア科目」と掲載いたしました。お詫びして訂正いたします。

AGUニューズについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニューズ」を年5回（1月、3月、5月、7月、10月）発行し、在学生の保証人の皆様へ送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニューズ」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュースを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けております。さらに「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニューズレター」として学内のAGUニューズ専用スタンドにて配布しています。なお、「AGUニューズ」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更手続きをお取りください。

事務取扱窓口
青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活グループ

AGUニューズのバックナンバーはこちらでご覧ください。
http://www.aoyama.ac.jp/agunews/

広報入試センター広報課●2005年3月10日発行●